

来季から京都にもLリーグチーム誕生!!  
京都のサッカー文化発展に期待したい

日本女子サッカーチーム（Lリーグ）1部の「宝塚バニーズレディースサッカークラブ」が、来季から本拠地を京都府内に移転する方針が固まった。この移転はスポンサー企業がなく、資金難から成績が低迷するバニーズに対し、京都府サッカー協会が誘致に動いたもの。今後は府協会幹部らが府内企業と交渉し、スポンサー獲得にも動くとのことだ。名称は「バニーズFC京都」になる見込み。この誘致がうまくいけば、京都府サッカー協会が女子サッカー活性化プロジェクトに積極的に取り組んでいることから、女子のサッカー人口増加、女子サッカー育成環境の向上に期待ができる。Jリーグの京都パープルサンガ、JFLの佐川印刷SCに加え、L1のバニーズが京都に誕生することになり、京都のサッカー文化全体の発展に拍車がかかるだろう。できればバニーズFC京都のホームゲームを京都パープルサンガのホームゲームと同日同会場で開催したりして、おおいに盛り上げて欲しい。そして、京都の女子サッカー選手が「なでしこジャパン」で活躍する姿を、近い将来ぜひ見たいものだ。

一番新しい日本の一ページ

## いまだこの歴史

美食家

米原の縄文人はマグロを食べていた!!  
美味しいものに懸ける昔人の知恵に感服

西暦(?)6015年



琵琶湖畔遺跡発掘で

ブルギルの骨を発見!!

米原市入江の「入江内湖遺跡」から、縄文時代中期～後期（約4300～4000年前）のマグロの骨が出土した。骨の大きさから推定すると体重50～60kgのマグロの骨らしい。内陸にある縄文時代の遺跡からマグロの骨が出土したのは西日本で初めてだ。ご存じのとおり、マグロは太平洋などを回遊する外遊魚。交易で手に入れたと考えるのが自然だが、同遺跡からは鹿の角でつくった釣り針も見つかっており、入江内湖人が外洋に遠征して漁を行った可能性も否定できない。縄文時代の滋養なら、周囲は木の実や淡水魚が豊富だったはず。それでも「マグロを食べたい!」と思った入江内湖人は、なかなかの美食家だったのかもしれない。現代人はあらゆる食べものを簡単に手に入れることができるが、縄文時代は違う。もし、筆者が自分自身でマグロを手に入れたとなれば…、縄文人の食べものへの情熱、食べ物を入手するための知恵と勇氣には、まったく頭が下がる思いだ。

不審人物撃退  
ゴミ箱ロボット  
B2-02



ゴミ箱撤去

いまだ国際情勢に対応できないのは誰?  
散乱するゴミから垣間見る京都の民度

今年の祇園祭は宵山が土曜日、山鉦巡行が日曜日ということもあって、空前の人出を記録した。筆者は宵々山にあたる金曜日の深夜、夜中の鉦町近辺を通りかかったのだが、とにかく街なかには凄まじいゴミ!! ちょうど宵山の少し前にロンドンで同時爆破テロが起こったため、地下鉄駅構内は全面ゴミ箱撤去、街なかにも多くのゴミ箱が撤去されていたからとも考えられる。たくさんボランティアのおかげで街中のいたるところに捨てられたゴミは驚くほどのスピードで回収されたが、そこらへんにゴミを放置しても平気な顔でそぞろ歩いている人たちにはまったく開いた口が塞がらない。確かに屋台で買い食いした後のゴミを持ち歩くのは不便だ。しかし、全世界がテロの脅威にさらされている困難な時代だからこそ、祭を心から楽しみ、楽しんだ後は良識を持って多少の不便を乗り越えようとする人の姿が見たかった。「国際都市」を謳う京都だが、これではあまりにも民度が低すぎないか?

京都初!! 女性一級審判員

和田りつ子さんの活躍にも期待!!



サンガレポーターとして本誌でもおなじみ

文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。  
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/~tsukapor/>

イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フラミンゴ、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>